

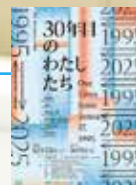
柄本 佑
尾野 真千子



心の傷を
癒すということ

劇場版

阪神・淡路大震災 30年 特別展「1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」12月21日(土)～2025年3月9日(日)
阪神・淡路大震災から30年を迎えるに際して開催する現代作家によるグループ展です。出品作家は、同時開催のチャンネル15とあわせ、國府理、東芋、田村友一郎、森山未來、梅田哲也、やなぎみわ、米田知子の6組7人。また、震災をテーマにした収蔵品展示や美術品レスキューの取り組みなどを紹介するコレクション展(1月7日～4月6日)も開催します。



阪神・淡路大震災時、傷ついた人の心に寄り添う、ひとりの医師がいた

阪神・淡路大震災発生時、自ら被災しながらも、他の被災者の心のケアに奔走し、日本におけるPTSD(心的外傷後ストレス障害)研究の先駆者となった精神科医・安克昌をモデルに、多くの被災者の声に耳を傾け、心の痛みをともに感じ、寄り添い続けた日々と彼を懸命に支えた家族との「絆」を描く感動作。(2020年/日本/1時間56分 ©映画「心の傷を癒すということ」製作委員会)

出演：柄本佑 尾野真千子 濱田岳 森山直太朗 浅香航大 清水くるみ 上川周作 濱田マリ 谷村美月

趙珉和 内場勝則 平岩紙 / キムラ緑子 石橋凌 近藤正臣

原案：安克昌「心の傷を癒すということ 神戸…365日」(作品社) 脚本：桑原亮子 音楽：世武裕子 総合演出：安達もじり

同時開催 新作『港に灯がともる』公開直前スペシャルトーク

『港に灯がともる』プロデューサー 堀之内礼二郎氏 安成洋氏

『心の傷を癒すということ 劇場版』主人公のモデルとなった安克昌氏の弟・安成洋氏と、プロデューサーの堀之内礼二郎氏をお招きし、映画の制作経緯や、「心の復興」をテーマに震災後の神戸に生まれた若い世代の葛藤を描く富田望生主演・安達もじり監督の新作映画『港に灯がともる』公開に向けた意気込みを語っていただきます。



堀之内礼二郎(テレビドラマ『心の傷を癒すということ』、映画『港に灯がともる』プロデューサー)

1979年生まれ。宮崎県出身。2003年NHK入局後、福井で番組制作、東京・大阪でドラマ制作に携わる。2012年にはアメリカ・ロサンゼルスでハリウッド流プロデュース術を学ぶ。携わった主な番組は、連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』『べっぴんさん』『まんぷく』。『心の傷を癒すということ』では第46回放送文化基金賞ドラマ部門最優秀賞を、『カムカムエヴリバディ』では第47回エランドール賞プロデューサー賞を受賞。

安成洋(『港に灯がともる』プロデューサー、『心の傷を癒すということ 劇場版』製作委員会)

1964年大阪市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。安克昌の実弟。経営法務コンサルタント(特定行政書士・社会保険労務士)。

『心の傷を癒すということ 劇場版』との関わりをきっかけに、神戸を舞台に「心のケア」をテーマとした映画を作ることを志し、ミナトスタジオを設立。震災30年の節目となる2025年1月17日に新作『港に灯がともる』を公開予定。



とき 2025年1月13日(月・祝) [入替制]
上映①10:30 《トーク12:45》 上映②14:00
※トーク参加ご希望の方は、入場券購入時に整理券をお受け取りください。

料金 中学生以上 1,000円
小学生・芸術の館友の会会員 500円
「1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」展の半券表示で800円
★前売券はありません。下記の割引券をご利用ください。

ところ 兵庫県立美術館 ギャラリー棟1F KOBELCOミュージアムホール

主催 兵庫県立美術館アートフェュージョン実行委員会 兵庫県映画センター

★美術館内(カフェを除く)は飲食禁止です。

【お問い合わせ】兵庫県映画センター内 KEN-Vi名画サロン係
☎078-754-5503

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 (HAT 神戸内)

Tel.078-262-0908

- 阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から徒歩約8分
- JR灘駅南口から徒歩約10分
- 阪急王子公園駅西口から徒歩約20分



特別割引券 心の傷を癒すということ 劇場版

この割引券を上映当日にご持参ください。

おひとり様 900円 で

ご覧いただけます。

※1枚で3名様まで割引します。
(携帯サイトにも割引券あります。)

【2025年1月13日 KEN-Vi名画サロン】

